縣立婦人宿泊所	隣保施設（獨身婦人環境改善）	內務省配當金 善後會配當金	六、九四四 三三、四八〇	市內蓬萊町一丁目 保土ヶ谷町帷子	婦人矯風會横濱支部 愛國婦人會 女子基督教青年會
縣立小住宅	住宅提供	內務省配當金	七九八、六〇〇	横濱市 横須賀市 鎌倉町 腰越津村 浦賀町 秦野町 厚木町 小田原町 眞鶴村 計 一、〇〇〇戸 一七〇戸 六〇戸 二五戸 五〇戸 二五戸 二五戸 二〇〇戸 三五戸 一、五〇〇戸	經營ハ各當該市町村ヘ委託
縣立婦人授產所	職業輔導 失業救濟 防貧	內務省配當金 善後會配當會	六〇、七九八 五七、〇〇二	市內蒔田町八反田 保土ヶ谷町帷子 横須賀市 小田原町 三七、〇〇二 二〇、〇〇〇	
縣營家庭副業授產奬勵會	福利施設	善後會配當金	五〇、〇〇〇		

沖仲仕休憩所	隣保施設	縣義捐金（福島縣寄贈）	二、〇〇〇	横濱市内 二ヶ所	神奈川縣匡濟會
縣立隣保會館	隣保施設	善後會配當金	四、〇〇〇	横須賀市 一ヶ所	市直營
縣立海水浴簡易更衣所	慰安保健施設	秋田縣義捐金	四、〇〇〇	横濱市 三ヶ所 潮田町 一ヶ所 鎌倉町 一ヶ所 逗子町 一ヶ所	本牧 二ヶ所 根岸 一ヶ所
復興資金融通	福利施設	縣義捐金（大阪朝日毎日新聞社寄贈）	三、〇〇〇	縣下全般 商工業資金 一〇〇、〇〇〇円 農業資金 一五、〇〇〇円 住宅資金 二三、〇〇〇円 三浦郡逗子町 三、〇〇〇 愛甲郡厚木町 五、〇〇〇 鎌倉郡腰越津村 五、〇〇〇 全鎌倉町 一四、五〇〇 中郡秦野町 二、〇〇〇 全大山町 一、〇〇〇 全大根村 一、〇〇〇 全東秦野村 一、〇〇〇 全高部屋村 一、〇〇〇 足柄下郡北秦野村 一、〇〇〇 全小田原町 六三、一九〇 全溫泉村 一、〇九〇 全眞鶴村 二、二七〇 全岩村 一、四五〇 住宅資金 一〇、〇〇〇	足柄下郡片瀬根府川
		縣義捐金（秋田縣寄贈八萬圓ノ内）	一〇、〇〇〇		

蘭乾燥機關補給資金	福利施設	縣義捐金（秋田縣寄贈）	三〇、〇〇〇		
小額生業資金	防貧救貧	內務省配當金	一〇〇、〇〇〇	縣下全般（横濱市ヲ除ク）	
輸出製品小工業者救濟生業資金		善後會配當金	五、〇〇〇		
蚕糸業者復興費貸付資金		善後會配當金	一〇〇、〇〇〇		
社會事業團体經費補助	助成	內務省配當金	四七四、〇〇〇	縣下三四團体	
社會事業團体經費補助	助成	善後會配當金	六、〇〇〇		
神奈川縣動物愛護會復興費	動物愛護	縣義捐金（秋田縣）	五、〇〇〇	水槽設置ヶ所 横濱市內十七ヶ所	
民力涵養施設	精神教化	縣義捐金	一、四二〇	野外劇 復興標語募集 復興ポスター作製	
		善後會配當金	一〇、〇〇〇		

（三）職業紹介所

大震火災に基因する失業者を救濟せんが爲に設けられたる縣立臨時職業紹介所に於ける紹介成績は次の如し。

因に云ふ本、職業紹介所は一ヶ年間の繼續豫算にて開所したるを以て、大正十三年九月限り廢止すべきものなれども、其の後も本所の存續を要求するの聲高きを以て、各所在市町村に交渉し、保土ヶ谷、浦賀兩紹介所は、保土ヶ谷町及浦賀町に移管經營せしむることゝなり、横須賀紹介所は、其の建物及備品一切を同市に交附して、同市紹介所と合併せしむることゝなれり。又平塚紹介所は翌十四年三月迄之を存續し、鶴見紹介所は潮田町に縣立簡易宿泊所新設と同時に同所に移管し、其の附帶事業として繼續し、小田原紹介所は郡役所新築の爲め建物撤廢に伴ひて大正十三年十一月一日之を廢止せり。創立以來の職業紹介成績は次の如し。

各紹介所別調（自大正十二年十月至大正十三年九月）

所別＼種別	求人數			求職者數			就職者數			紹介件數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
鶴見	一、七八〇	三、八	二、一〇八	一、三一一	一三七	一、四四八	五三九	七八	六一七	一、二三三	一四〇	一、三七三
平塚	九六三	九三四	一、八九七	三九九	五一	四五〇	二七七	一九	二九六	三八二	三五	四一七
横須賀	一、九六七	三六二	二、三二九	一、〇六一	一五五	一、二二六	四六二	四七	五〇九	五六一	五七	六一八
小田原	一、二〇一	二三七	一、五三八	八四三	一七四	一、〇一七	五四九	三一	五八〇	六五一	三四	六八五

各月別調（自大正十二年十月至大正十三年九月）

浦賀	保土ヶ谷	計
二、三三六	一、一六九	九、五一六
二六四	一、〇一九	三、一四四
二、六〇〇	二、一八八	一三、六六〇
四八一	一、四三一	五、五一六
二四	一五〇	六九一
五〇五	一、五八一	六、二一七
二二	五五〇	二、五九九
六	六七	二四八
二、八四七	六一七	二、八四七
一七七	九七五	四、〇七九
九	九八	三七三
一、〇七三		四、四五一

月別	種別	求人數			求職者數			就職者數			紹介件數		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
十月		一六二	六四	二二六	一三〇	一二	一四一	五二	六	五八	五八	一〇	六八
十一月		六八九	二二六	九〇五	六二八	五四	六九二	二六八	一七	二八三	三二六	二五	二五一
十二月		一、〇〇一	一五五	一、一五六	四一三	三四	四四七	二二一	一四	二六七	三九一	二四	四一五
一月		九九九	二二〇	一、一一九	五二八	三五	五七三	二三三	一四	二四七	四〇二	二三	四二五
二月		九五四	一七九	一、一三三	六二五	三七	六五二	二五五	二	二六七	四三九	二三	四六二
三月		一、〇〇一	一、〇二四	二、二二五	五三九	六九	六〇八	二三四	一八	二五二	三七五	二四	三九九
四月		一、五二〇	二三一	一、七五一	五〇五	一八〇	六八五	二二八	三三	二六〇	三五八	五九	四一七
五月		六七五	四六三	一、一三八	三四二	六六	四〇八	一四七	三四	一八一	二六二	四五	三〇七
六月		六二八	一三一	七五九	四三七	四六	四八三	二五二	二五	二七七	三五三	二九	三八二
七月		八一三	二二七	九四〇	四三七	四七	四八四	二五五	二〇	二七五	三三六	二七	二六三

月											
八月	五二〇	一四五	六六五	五二三	五六	五七八	二五〇	三二	二八二	三六九	四四	四一三
九月	五一一	三三八	八四七	四九〇	六五	五五五	二三五	三〇	二六五	三四三	四九	三九二
計	九、六七三	三、一九二	二、八六四	五、六〇六	七〇〇	六、三〇六	三、六二八	二五四	二、八八二	四、〇二二	三八三	四、三九四

横濱市櫻木町に建設せる中央職業紹介所は大正十二年八月二十五日竣成し、九月一日開所したるに、恰も同日大震災ありて僅に倒潰を免れたるも、富士見町、中村町、萬國橋及高島橋の各紹介所は全燒し、櫻橋紹介所も亦被害甚しく、一時取扱ひを中止するの餘儀なきに至りたるも、罹災失業者の續出せるを以て、中央紹介所(櫻木驛前バラック)及櫻橋紹介所(舊廳舍)を開所し、淺間町に天幕張りの臨時紹介所を設けて應急的事務を開始せり。其後、內務省社會局より、櫻木町大江橋際、横濱驛前、神奈川七軒町、扇町扇橋際及大岡町弘明寺の五ヶ所に紹介所(バラック)を新設貸與せられたるを以て、中央紹介所を櫻木町に、櫻橋紹介所を横濱驛前に、富士見町紹介所は壽紹介所と改稱して扇町に、高島橋紹介所を神奈川紹介所と改稱して青木町七軒町に、中村町紹介所を弘明寺紹介所と改稱して、大岡町にそれ〳〵移轉し、十一月より事務を開始し、萬國橋紹介所は之を廢止せり。震災後、各紹介所の事業成績は次の如し。

一般職業紹介成績(自大正十二年九月十七日至仝十三年三月卅一日)

紹介所別 ＼ 扱別性別	求人數			求職者數			紹介件數			就職者數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
中央職業紹介所	八、七七八	二、八三六	一一、六一四	七、二三五	一、六三四	八、八六九	六、〇八九	一、三一八	七、四〇七	三、二八〇	八二二	四、一〇二

日傭勞働紹介成績（自大正十二年九月十七日至仝十三年三月卅一日）

扱別性別 / 紹介所別	求人數 男	求人數 女	求人數 計	求職者數 男	求職者數 女	求職者數 計	紹介數 男	紹介數 女	紹介數 計
中央職業紹介所	四七、〇九七	二、〇二八	四九、一二五	四三、〇〇一	一、八六一	四四、八六二	三六、九五二	一、八五八	三八、八一〇
櫻橋職業紹介所	一九、三二八	一〇七	一九、四三五	二〇、八二一	八四	二〇、九〇六	一七、五五七	六四	一七、六二一
神奈川職業紹介所	一四、一三〇	一一三	一四、二四三	一五、七三〇	一一七	一五、八八七	一三、九三五	一一三	一四、〇四八
壽職業紹介所	四、九八四	四〇	五、〇二四	三、九〇三	一五	三、九一八	二、九五二	一五	二、九六七
弘明寺職業紹介所	二〇五	—	二〇五	七一三	—	七一三	七〇七	—	七〇七
淺間町職業紹介所	七三七	—	七三七	一、〇四五	—	一、〇四五	六五三	—	六五三
櫻橋職業紹介所	二、七六八	七六三	三、五三一	二、一二三	二、四二七	一、九三八	三二九	二、一六七	八一一	一四三	九五四
神奈川職業紹介所	七一〇	二〇九	九一九	一、三七六	一、四六七	九二四	六二	九八五	四九九	三一	五三〇
壽職業紹介所	一、三六二	五六七	一、九二九	一、二八二	一、六四一	八九一	三八九	一、一八〇	四一三	一三七	五五〇
弘明寺職業紹介所	四五五	二〇七	六六二	二九四	三五二	一八八	四二	二三〇	九四	三一	一二五
淺間町職業紹介所	一七一	七七	二四八	一三二	一九二	五六	七〇	二六	二五	三五	六〇
合計	一四、二四四	四、六五九	一八、九〇三	二一、四四〇	二、五〇八	一四、九四八	一〇、〇八六	二、〇〇九	一二、〇九五	五、一二三	一、一九八	六、三一〇

合計	八六、四八二	二、二八八	八八、七六九	八五、二五四	二、〇七七	八七、三三一	七二、七五五	二、〇五〇	七四、八〇五

勞務別勞働紹介成績（自大正十二年九月十七日至仝十三年三月廿一日）

勞務別／紹介所別及性別	中央職業紹介所 男	中央職業紹介所 女	中央職業紹介所 計	櫻橋職業紹介所 男	櫻橋職業紹介所 女	櫻橋職業紹介所 計	神奈川職業紹介所 男	神奈川職業紹介所 女	神奈川職業紹介所 計	男
沖仲仕	二、四六六	—	二、四六六	一、〇七七	—	一、〇七七	一、二三〇	—	一、二三〇	三九三
水揚人夫	二、九七六	—	二、九七六	一、一七四	—	一、一七四	五、一二六	—	五、一二六	四〇九
貨車積卸	三、四〇九	—	三、四〇九	三八五	—	三八五	二五一	—	二五一	一七四
工場雜役	三、九五四	一、二三八	五、一九二	—	一九	一九	三、三七七	一三	三、四九〇	一九
車力	一、一六三	—	一、一六三	三八八	—	三八八	二七九	—	二七九	一八七
土工	七、七六〇	—	七、七六〇	六、六九一	—	六、六九一	一、二九六	—	一、二九六	七六一
官公署人夫	五、八五二	—	五、八五二	二、八〇五	—	二、八〇五	六七三	—	六七三	四二七
焼跡片付	五、五五〇	—	五、五五〇	二、九二二	—	二、九二二	七九二	—	七九二	二〇二
建築手傳	二、二二五	—	二、二二五	一、二七九	—	一、二七九	七八一	—	七八一	一七八
其他	一、六九七	六二〇	二、三一七	八三六	三五	八七一	一三〇	—	一三〇	一〇二
計	三六、九五二	一、八五八	三八、八一〇	一七、五五七	六四	一七、六二一	一三、九三五	一三	一四、〇四八	二、九五二

	蠶職業紹介所		弘明寺職業紹介所			淺間町職業紹介所			合計		總計
	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
	—	三九三	—	—	—	—	—	—	五、一六六	—	五、一六六
	—	四〇九	—	—	—	二四〇	—	二四〇	九、九二五	—	九、九二五
	—	二七四	—	—	—	—	—	—	四、三二九	—	四、三二九
	—	一九	—	—	—	—	—	—	七、三五〇	一、三八〇	八、七三〇
	—	一八七	—	—	—	—	—	—	二、〇一七	—	二、〇一七
	—	七六一	—	—	—	九五	—	九五	一六、六〇三	—	一六、六〇三
	—	四一七	—	—	—	一〇七	—	一〇七	九、八六四	—	九、八六四
	—	二〇三	七〇七	—	七〇七	二一〇	—	二一〇	一〇、三八三	—	一〇、三八三
	—	一七八	—	—	—	—	—	—	四、三六三	—	四、三六三
	一五	一一七	—	—	—	—	—	—	二、七六五	六七〇	三、四三五
	一五	二、九六七	七〇七	—	七〇七	六五一	—	六五一	七二、七五九	二、〇五〇	七四、八〇五

横須賀市にては十月二十日より市役所内に於ける職業紹介所の事務を再び開始し、震災による失業者六百九名を救濟し、川崎市に於ては、同市宮前十九番地にある職業紹介所を九月十日より再び開始せるが、九月中の事業成績は、求人數六六九人、求職者數四九〇人、就職者數四五一人、紹介件數四七二なりとす。

（四）公設市場

横濱市の公設市場は、本牧及青木の二所は半潰し、其の他は總て全燒せしが、物資の缺乏に伴ひて、物情恟然たるを以て、九月十一日、配給部より白米十二俵を請ひ受け、市中を巡回販賣したりしが、瞬く間に賣り盡せり。其後取敢へず根岸、本牧、宮の前、南太田、西戸部、弘明寺、岩龜横町、東輕井澤、淺間町、榮橋、中村町、蒔田、一本松及東神奈川町の十三ヶ所にバラック若くは天幕の公設市場を建設し、配給部より得たる食料品を販賣し、其後、更に本牧及青木市場を開き、新しく磯子市場を設け、罹災市民のため出來得る限り、廉價を以て良品を供給するを努めたり。猶公園、平沼、福富町、瀧橋、日之出、翁、山下町及鐵砲場にも開設せり。

自大正十二年九月
至大正十三年三月　公設市場（各店舗）賣上高

種別＼月別	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
白米	円 —	円 一五、〇九二、一九	円 四五、六六四、七〇	円 五三、三四九、九九	円 三一、九五六、〇〇	円 三三、七二〇、〇〇	円 三六、四一六、〇〇	円 二二六、一九八、八八
雜穀	—	—	五八、〇〇	三五三、〇〇	二〇一、〇〇	—	二一〇、〇〇	八三一、〇〇
乾物	一、三九〇、〇〇	八、八三九、七一	一〇、六四七、四五	一六、五〇〇、五四	九、五六七、〇〇	九、九一五、〇〇	八、九三二、〇〇	六五、七九一、七〇
味噌	四三八、〇〇	二、七四六、八五	三、一三五、八〇	三、四五二、四九	一、三三七、〇〇	一、八一七、〇〇	二、五七九、〇〇	一五、五〇六、一四
醬油	一、一七九、〇〇	四、二四三、二七	四、四三〇、九五	四、八五〇、一五	三、四五五、〇〇	二、九三八、〇〇	三、五一四、〇〇	二四、六一〇、〇一
漬物	一八四、〇〇	八〇八、四八	一、一九四、三五	一、七八八、六五	一、七〇四、〇〇	二、一四六、〇〇	一、六一七、〇〇	九、四四二、四八
蔬菜	三六六、四八	四、四九一、二四	一〇、四九〇、七〇	三、六九三、九八	八、七九一、〇〇	九、〇一〇、〇〇	九、〇九九、〇〇	五四、九二四、四〇

| | | |

市場別＼月別	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
	円	円	円	円	円	円	円	円
本牧	—	二、七二六、〇八	三、七五一、四〇	三、〇二一、八三	一、六八五、〇〇	一、一一三、〇〇	二、五五一、〇〇	一四、八四八、三〇
上臺	一〇、一八一、八五	一八、四四一、六〇	一五、五二二、〇〇	二〇、一三八、二〇	一三、一三五、〇〇	一四、二七八、〇〇	一四、〇〇二、〇〇	一〇五、六九九、六五
公園	—	—	一〇、七八二、八〇	二二、四〇〇、五〇	六、〇九五、〇〇	六、八四八、〇〇	三、六九〇、〇〇	三九、八一六、三〇
根岸	—	一一、六一〇、三七	九、九九六、三〇	二二、六一〇、八三	九、一九七、〇〇	九、一七六、〇〇	九、五五七、〇〇	六二、一四七、五〇
中村町	—	—	二、三六三、四〇	三、三四九、六九	一、五三五、〇〇	一、六〇二、〇〇	一、三四八、〇〇	一〇、一九八、〇九
宮ノ前	—	五、八八二、五四	五、七八〇、七〇	七、五八六、六七	五、六六六、〇〇	五、二五九、〇〇	四、六八八、〇〇	三四、八四二、九一
弘明寺	—	三、四五〇、九〇	二、九八三、〇〇	四、八七三、八四	三、八二六、〇〇	四、〇四三、〇〇	二、九〇〇、〇〇	三二、〇七六、七四
西戸部	—	五、七五九、一六	八、六九五、〇〇	七、九〇四、〇三	四、六二八、〇〇	四、四四〇、〇〇	四、三五六、〇〇	三五、七八二、二九
淺間町	—	—	三、九四四、九〇	三、九四六、三〇	二、二七六、〇〇	二、四〇七、〇〇	三、一九六、〇〇	一五、七七〇、二〇

自大正十二年九月
至大正十三年三月　市場別賣上高

建具	塗物	切餅	合計
—	—	—	一〇、四六八、二八
—	—	—	六二、〇九二、六七
—	—	—	一三一、四七九、四〇
—	—	二、〇〇七、三〇	一六二、七八六、四五
四五九、〇〇	二七、〇〇	—	一〇一、〇一四、〇〇
—	三九、〇〇	—	一〇四、一三七、〇〇
—	二七、〇〇	—	九八、三八八、〇〇
九七四、〇〇	九三、〇〇	二、〇〇七、三〇	六六九、三五五、八〇

青木	二八六、四三	二、七五九、〇三	一四、〇四九、五〇	二三、六四八、七二	一三、三三四、〇〇	一〇、五五九、〇〇	一三、〇〇二、〇〇
東神奈川	—	—	二、九一三、三〇	一、八五八、五〇	一、四四五、〇〇	九一八、〇〇	六六〇、〇〇
一本松	—	—	—	—	三八〇、〇〇	—	—
南太田	—	一、六六四、一三	一、七九二、七三	六、七九三、〇五	四、五六三、〇〇	三、九二四、〇〇	三、八九六、〇〇
磯子	—	一、八九五、八二	二、四〇一、四七	三、五六五、七八	一、九六一、〇〇	二、〇六四、〇〇	一、八八八、〇〇
鐵砲場	—	一、〇五〇、二七	九、二一六、〇〇	一四、六三三、八五	八、二六七、〇〇	六、五二一、〇〇	八、二八九、〇〇
東輕井澤	—	五、七五九、九四	九、二七五、〇〇	六、三五七、五八	二、三三〇、〇〇	一、〇〇〇、〇〇	二四三、〇〇
岩亀横町	—	—	一、九〇四、三二	三、〇七二、九二	一、三三三、〇〇	一、八〇〇、〇〇	二、五八〇、〇〇
榮橋	—	一、〇九一、六四	—	四、一六七、四〇	一、六九五、〇〇	一、六一三、〇〇	二、一七八、〇〇
平沼	—	—	九、八五〇、〇五	一三、二七六、三八	六、九五二、〇〇	四、八五一、〇〇	二、二九〇、〇〇
福富町	—	—	六、四五〇、五七	九、五八〇、三九	六、〇八九、〇〇	六、〇〇〇、〇〇	四、三八七、〇〇
日ノ出町	—	—	—	—	二、三八一、〇〇	四、〇三九、〇〇	二、三三六、〇〇
瀧ノ橋	—	—	—	—	二、七九五、〇〇	五、七四三、〇〇	四、九七八、〇〇
山下町	—	—	—	—	四七六、〇〇	三、九七三、〇〇	三、三一〇、〇〇
翁町	—	—	—	—	—	一、九九六、〇〇	二、〇七三、〇〇
合計	一〇、四六八、二八	六二、〇九二、六七	三二、四七九、四〇	一六一、七八六、四五	一〇一、〇一四、〇〇	一〇四、一三七、〇〇	九八、三八八、〇〇

青木	七六、六二八、六八
東神奈川	七、七九四、七〇
一本松	二八〇、〇〇
南太田	二三、六三三、〇〇
磯子	一三、七七六、〇七
鐵砲場	四七、九六七、一二
東輕井澤	二四、九五五、五二
岩亀横町	一〇、六八〇、二三
榮橋	二〇、五五二、一一
平沼	三六、二一九、四三
福富町	三三、五〇六、九六
日ノ出町	八、七四六、〇〇
瀧ノ橋	一三、五一六、〇〇
山下町	七、七五九、〇〇
翁町	四、〇六九、〇〇
合計	六六九、三五五、八〇

横須賀市汐留にある公設市場は近接せる斷崖崩壞して市場全部埋沒せるを以て、十月一日より一時上町深田上通り

にて開所し、其後下町燒跡の整理成るに及んで若松町八六番地に假建築して十三年三月一日より開所し、稻岡町公設市場は震災後、臨時震災救護事務局より本縣に交付せられたる義捐金の一部を以て建設し、之が經營を横須賀市に委托し、十三年三月より開所せり。

鎌倉町大町字藏屋敷の鎌倉町公設市場及小田原町緑町一ノ二にある小田原町公設市場は、本縣が震災救護事務局より交付せられたる義捐金の一部を以て建設し、十三年三月よりいづれも開所せり。

神奈川縣匡濟會の施設にかゝる川崎市場の内十七番地にある川崎公設市場及鶴見町一〇一三番地にある鶴見公設市場は震災の被害なかりしを以て、一部賣店は震災後一日も休止せず、其の營業を開始し、其の他も九月四日、一齊に開場するを得たり。

横濱市中央食品市場は、震災に遭ひて倒潰燒失したるを以て、約百坪の木造一棟を燒跡に建設して、九月二十五日再び事業開始せり。

（五）簡易食堂

横濱市櫻木町辨天橋際の櫻木町公衆食堂、同市山下町花園橋際の花園橋公衆食堂、同市中村町字山田の中村町公衆食堂、同市翁町五丁目の翁町公衆食堂、同市萬國橋際職業紹介所内の萬國橋食堂は全燒し、根岸町の根岸共同住宅館食堂は全潰し獨り同市中村町池ノ下の中村町共同住宅館食堂のみ殘存したるを以て、直に之に應急修理を施し開設せり。其後本縣にては、臨時震災救護事務局より交付せられたる義捐金を以て、市内五ヶ所に簡易食堂を建設し、之が經營を市に委托したりしかば、新に櫻木町食堂を十三年八月一日より、花園橋食堂及中村町食堂を同年九月一日より翁町食堂を同年九月三日より開所せり。

横須賀市山王町四八の横須賀社會館食堂は、縣が臨時震災救護事務局より交附せられたる義捐金を以て建設し、之が經營を横須賀工廠工友會に委托し、十三年八月二十五日開設せり。

神奈川縣匡濟會施設の横濱市表高島町甲三五ノ二にある横濱社會館食堂は震災後直に臨時震災事務局に貸與し、館内病院は固より其の他縣市救護事務關係者に對する焚出しをなし、一日多きは四千五百人分に達せしことあり。十二月十五日其の賃貸契約の解除せらるゝや、直に食堂内を整理し、十三年一月一日社會館の宿泊事務開始とともに再び一般簡易食堂を開始せり。

同じく匡濟會施設の川崎市堀ノ内一七にある川崎社會館食堂は震災の被害なかりしを以て一日も休業せず、震災當日は川崎町當局の求に應じ、焚出をなして罹災町民を救助せり。

(六) 公設浴場

横濱市表高島町甲三十五號の四にある神奈川縣公設浴場は大震火災の爲に全燒したるを以て、一時之を放棄したりしが、其後ライヂング石油株式會社より一萬三千圓の寄附ありしを以て、再び燒跡に建坪六十九坪四合の木造平家建の浴場を新設し、十三年六月二十六日より開場せり。臨時神奈川縣公設浴場は本縣が臨時震災救護事務局より交附されたる義捐金二十一萬二千圓を以て市内十七ヶ所及横須賀、鎌倉、厚木の三ヶ所に建設し、市内は浴場聯合會に、郡部は各市町に委託經營せしめ、十二年十二月末より漸次開場し、翌十三年二月に至り、全部開場せり。

横濱市公設浴場の中、大震災の爲に同市根岸町柏葉にある根岸公設浴場及同市中村町池ノ下にある中村公設浴場は全潰し、同市神奈川町齊藤分にある齊藤分公設浴場及同市南太田町庚耕地にある久保山公設浴場は破損したりしが、後者は之を修理し、前者の中村公設浴場は復舊工事をなして、十三年一月二十五日より開場せり。猶兵庫縣の寄贈に

かゝるバラック式公設浴場を

一、西戸部町願成寺下

二、元町四丁目

三、日ノ出町二丁目

四、羽衣町辨天社内

五、中村町玉泉寺隣

六、南太田町新坂下

七、横濱公園内

の七ヶ所に建設したりしも、公園及日ノ出町を除いて他は、十三年三月三十一日を以て閉鎖せり。又大震災善後會の寄附金の一部を以て、平沼町に五十坪餘の公設浴場を建設し、十三年二月一日より開場せり。

（七）住　宅

内務省社會局は本縣に交附するに、建築費七十八萬四千二百圓、借地料半ヶ年分一萬四千四百圓を以てし、一千五百戸の小住宅建設を委任せり。縣當局は種々考慮し、横濱市内に建設すべき一千戸中七百戸は四疊半、三疊の二間（建坪六、五坪）、三百戸は四疊半一間（建坪三、七五坪）とし、横須賀市其の他郡部に建設すべき五百戸は、六疊、四疊半（建坪六、二五坪）の二間とし、バラック居住者に優先權を與へて之を貸與することゝし、十三年八月末日、全部の竣工を見たり。其の建設の經過及所在地は次の如し。

各組合、名稱、所在地、住宅、戸數等並に震災による被害狀況を表示すれば左の如し

組合名稱及所在地		建築濟住宅戸數	未建築住宅戸數	焼失住宅數及損害額	全潰戸數及損害額	半潰戸數及損害額	上欄以外ノ損害額	損害總額
橘樹郡田島町	有限責任田島住宅組合	一四	一	円	二一、三四〇円九	三、九二〇円四	五四〇円一	二五、八〇〇円
鎌倉町	サラリーメン住宅組合	八		四、〇〇〇二	一、二〇〇一	一、八〇〇二	八〇〇三	七、八〇〇
仝町	平安住宅組合	八			二四、五五〇七		一、六五〇一	二六、六〇〇
横須賀市	互相住宅組合	一三	一三			二、二〇〇二	三、三〇〇一一	五、五〇〇
中郡平塚町	平塚住宅組合	二三	二三		一、六〇〇一		四、四〇〇二三	六、〇〇〇
仝郡大磯町	大磯住宅組合	九						一、三五〇九
足柄下郡小田原町	小田原住宅組合	二三	四	二、〇〇〇一	二三、四〇〇五	九、三〇〇六	一、三〇〇一	二五、〇〇〇
橘樹郡潮田町	潮田町市場住宅組合	四	四		七〇〇二		一〇〇二	一、二〇〇
鎌倉郡鎌倉町	星月住宅組合	六	一	三、〇〇〇二	二、七〇〇一		三〇〇三	六、〇〇〇
仝町	交友住宅組合	五	五		二、八〇〇一		一、八五〇四	四、六五〇
横須賀市	相互住宅組合	六	一		一、二五〇一		七五〇五	二、〇〇〇
三浦郡田浦町	田浦住宅組合	二	五				一〇〇二	一〇〇

橘樹郡保土ヶ谷町	富士信用住宅組合									
鎌倉郡戸塚町	戸塚住宅組合									
橘樹郡鶴見町	有限責任横濱住宅信用購買利用組合	五〇								
足柄下郡小田原町	箱根物產建物購買利用組合	六	二							
計		一六七	六八	九、〇〇〇 五	一〇、七四八 三二	三六、一二〇 五六	二四、三九〇 八七	一三三、四〇〇		
横濱市	有限責任銀行集合所員住宅組合	七				四、五〇〇 四	二、一〇〇 三	六、七〇〇		
仝	興信住宅組合	七		二、五〇〇 一	八、〇〇〇 四		一、一〇〇 二	二、七〇〇		
仝	横濱文化住宅組合	八		二、五〇〇 一	二、六〇〇 二	三、〇〇〇 五		八、一〇〇		
仝	横濱住宅組合	七			七、五〇〇 四	二、二五〇 三		九、七五〇		
仝	櫻木住宅組合	七		七、八〇〇 三		一、三〇〇 一	一、四〇〇 三	一〇、五〇〇		
仝	協立住宅組合	六	一		二、八〇〇 二	一、一〇〇 一	一、五〇〇 三	五、四五〇		
仝	大正住宅組合	七				二、〇〇〇 四	六五〇 三	二、六五〇		
仝	七福住宅組合	五	二		四、〇〇〇 二		一、六〇〇 三	五、六〇〇		
仝	辛酉住宅組合	七			五、四四〇 三	一、三八〇 一	九〇〇 三	七、七二〇		

横濱市親友住宅組合	七	—	一、一〇〇	一	三、三〇〇	二	—	六、四〇〇
仝　市瓦斯住宅組合	七	—	二、二〇〇	一	三、三〇〇	二	一、九五〇	七五〇
仝　市公民合同住宅組合	九	—	六、〇九〇	三	二、六〇〇	二	—	一、二〇〇
仝　市金港住宅組合	七	—	—	—	二、〇〇〇	一	—	二、七〇〇
仝　市横濱絹業住宅組合	七	—	—	—	—	—	二、〇〇〇	二、五〇〇
仝　市正久共同住宅組合	八	—	—	—	七、二〇〇	五	二、〇〇〇	—
仝　市横濱相互住宅組合	七	一	—	—	五、二〇〇	四	—	一、〇〇〇
仝　市根岸住宅組合	七	—	二、二〇〇	一	一、〇〇〇	一	五〇〇	一、三〇〇
計	三〇	四	二四、五九〇	一二	二八、五三〇	六五	五八、一〇〇	二一、一五〇
合計	二八七	七二	三三、五九〇	一六	二八、五三〇	六五	五八、一〇〇	四五、五四〇

横濱市營住宅は久保山、中村町、齊藤分、根岸柏葉、古井戸に在りしが、震災に因る被害狀況及其の復舊狀況は次表の如し。

震災に依る被害狀況及震災後に於ける其の復舊狀況を表示すれば左の如し。

名稱	被害狀況 全潰	半潰	小破	復舊狀況 修復	バラック建
久保山市營住宅	五二戸	六戸	一六戸	二戸	戸
中村町　仝	七三	四八	三五	九四	
齊藤分　仝		三五	一五三	一八八	
柏葉　仝	五一				四三
古井戸　仝			一〇一	一〇一	
合計	一七九	八九	三〇五	四〇四	四三

郡部公營住宅はいづれも多少の被害あり之を表示すれば次の如し。但し直に之が修理再建に從事し、略々舊態に復するを得たり。

經營主体並所在地	住宅戸數	全燒戸數及損害額	全潰戸數及損害額	半潰戸數及損害額	破損戸數及損害額	損害總額
横須賀市	二〇〇		円	円	九〇円 二、一〇〇円	二、一〇〇円
川崎市	四八				一〇 三、〇〇〇	三、〇〇〇
橘樹郡潮田町	五四		一九、七六〇 三六	一〇、三九〇 二八		三〇、一五〇
仝　郡鶴見町	三五		一、六〇〇 一	三、〇五〇 三四		三、六五〇

高座郡藤澤町	四〇	—	二六、二五〇	—	—	二六、二五〇
計	三七七	—	四七、六一〇	三一、四四〇	五、一〇〇	八四、一五〇

住宅組合數は横濱に十七、他の郡市部に十四、合計三十一、之が住宅建築戸數は二百八十二戸、別に產業組合法に依るもの二、之が戸數六十七戸ありて、總計三百五十九戸なりしが、其被害狀況は左の如し。

郡市	町村	所在地	戸數 大	戸數 小	戸數 計	著工期日	竣工期日	貸付開始期日
横濱市	蒔田町會下		二三三	六七	二〇〇			
仝	八戸目		一八	三〇	四八			
仝	雜色		—	四六	四六			
仝	榎木坪		二四	九	三三			
仝	西戸部町大松久保		六	三	二八			
仝	神奈川町齊藤分	三、〇九五	四八	—	四八			
仝	仝	三、〇九九	四八	—	四八			
仝	仝	三、一〇二	三七	—	三七	大正十三年二月六日	大正十三年八月廿二日	大正十三年七月廿二日
仝	仝	二、九四八	三八	八	四六			
仝	岡野町	一二〇	三六	一六	五三			

〃	〃　七三	七二	—	—	七二	
〃	根岸町字下	三〇	四八	七八		
〃	北方町天沼	一八	—	一八		
〃	大岡町	一四五	五四	一九九		
〃	久保町字宮ノ下	四八	—	四八		
横濱市內合計		七〇〇	三〇〇	一、〇〇〇		
横須賀市	公鄉	—	—	四六	〃年三月十二日	〃年六月廿八日
〃	〃	—	—	二四	〃年七月卅一日	〃年七月二十六日
〃	佐野	—	—	一〇〇		
三浦郡	浦賀町芝生	—	—	二七	〃年四月廿四日	〃年八月十四日
〃	〃　新井	—	—	六		
〃	〃　鴨居	—	—	一七		
鎌倉郡	鎌倉町今小路	—	—	四一	〃年四月十八日	〃年八月四日
〃	〃　泉ヶ谷	—	—	一九		
〃	腰越津村二八	—	—	五		
〃	〃　二二〇	—	—	六	〃年四月二十二日	〃年八月四日
〃	〃　七二	—	—	八		

仝	仝　六〇一	—	—	六	仝	仝
足柄下郡	小田原町新玉一丁目	—	—	八	仝年四月二十三日	仝年八月二十一日
仝	仝　二丁目	—	—	一八		仝　年八月廿四日
仝	仝　山王	—	—	一六		
仝	小田原町十字四丁目	—	—	三〇	仝十三年四月廿三日	仝年八月二十一日
仝	仝　幸一丁目	—	—	四八		仝　年八月廿四日
仝	眞鶴村丸山	—	—	二九	仝　年四月十五日	仝　年七月廿八日
仝	仝　學校前	—	—	六		仝　年九月一日
愛甲郡	厚木町	—	—	二五	仝　年四月十四日	仝　年七月十二日
中郡	秦野町會屋御門	—	—	九	仝　年五月十四日	仝　年八月一日
仝	仝　會屋小宮	—	—	一六		仝　年九月一日
郡部合計		—	—	五〇〇		
總計		—	—	一、五〇〇		

備考　竣工期日は全部の竣工せる日にして一部竣工せる場合は直に之を貸與せるものとす。

五、工業方面の被害及復興

(一)造船工業

造船工場の大なるものは、横濱船渠株式會社、株式會社淺野造船所、浦賀船渠株式會社の三工場なりとす。横濱船渠株式會社は工場の大部分を燒失し、設備機械の大部分も亦其の燒く所となり、損害の總額は實に四百五十二萬に達す。然れども鋭意復興に力め十月一日より作業の一部分を開始し、十三年十月には建物の四割方を復舊し、設備機械は約八割方舊に復せり。淺野造船所は其被害輕く、九月十七日より作業を開始したるも、同所に屬する製鈑工場は被害稍々大なりしが十三年二月に至りて舊の如く復するを得たり。其損害額は約百九十萬圓にして、其大部分は製鈑工場の復舊費なりとす。浦賀船渠株式會社は銅、電氣、錬鐵、木、鐵物の各工場を除くの他は倒潰燒失したりしを以て其損害額は二百八萬圓を算せり。然れども之が復舊に力を盡し、十二年末には一部の事業を開始し、同年十月には木型工場を除くの他は殆んど舊に復したりき。

(二)セメント工業

本縣に於けるセメント工業に唯一の淺野セメント株式會社川崎工場あるのみ。第一工場に於ては煙道灰溜室、電氣集塵室、木樽製作室、第二工場に於ては厚石粗碎室冷却機室、樽詰場、石炭及粘土乾燥室等は第一震とともに全潰せしが、震災後直に復舊費二百萬圓を計上し、自社の職工及多數の人夫を使役して復舊工事に努めたる結果被害の比較的輕微なりし、第一工場は早くも九月十日より作業を開始し、一日二千五百樽の製産をなすに至れり。再來復舊工事

は着々進捗し、十三年十月に至りては建物及設備機械等の永久的施設に復舊したるのみならず、進んで製法の一部を改良し、燒成石灰を原料として、爲に其能率を增進し、遂に第一第二兩工場の生產月額は二十萬樽に達し、從業者も震災前に比して約百名を增加するに至れり。

(三) 硝子工業

硝子製造工場の大なるものは旭硝子株式會社鶴見工場と大日本麥酒株式會社保土ヶ谷製壜工場との二にして、他に小規模の大野硝子製造所の電球製作、神奈川硝子製造合資會社及落合工業所の硝子瓶製作等あり。旭硝子鶴見工場は延窯を全潰したるも、作業の首腦部たる熔解窯、吹場の被害輕微なりしため、其復舊意外に進捗し十三年一月には十一臺の吹機を運轉するに至れり。爾來建物は猶一時的のものあるも、十三年十月に至りては全部復舊したりしのみならず、吹機は震前に比して三機の增設を見るに至れり。其復舊及擴張に要したる、經費は約二百萬圓生產額は震前に比して約一倍半に達し、目下月に三萬箱を製造し、從業者は三十名の增加を見るに至れり。大日本麥酒保土ヶ谷工場は熔解窯及其他重要なる部分に甚大なる損害を蒙りたるも、幸にして製壜機の被害輕微なりしも、其復舊は比較的容易にして、其後全部の復舊を見、年額約二千五百萬本を生產し得るに至れり。但し其從業者は震前に比して大差なし。大野硝子は全潰全燒し、久しく復舊するに至らず、神奈川硝子落合硝子は被害輕微なりしを以て災後間もなく作業を開始せり。

(四) 製紙工業

洋式の抄紙機を有するは、小田原製紙株式會社と吉濱製紙株式會社との二工場にして、其他はいづれも規模小なる

手漉業者あり。此等の手漉業者は橘樹郡稻田村を中心とする一帶の地に集中して、其數約四十工場あり。小田原製紙工場は震災を蒙むること甚しく、建物は全潰し設備機械は全く破壞せり。然れども爾來鋭意是が復舊に努め、十三年十月に至りて建物は一時的なるも、抄紙機、叩解機、蒸熱機、等作業の主体は全部復舊せり。其製品は半紙、コッピー紙、封筒紙等なるが、生産能力は震前に比して猶幾分の遜色あるを免れず、從つて從業者も震前の二割減程度なり。吉濱製紙は建物傾斜したるも、抄紙機、叩解機等は被害輕微なり。但し同工場は其動力を水力に取れるを以て、水路破壞して、多大の損害を蒙れり。然れども十三年十月に至りては震前に復舊し、生産能力にも變化なかりしも熱海線全通せざるがため、原料燃料の運送に多大の費用を要し、全能力を發揮する能はず、從業者の如きも、震前の半數に過ぎず。稻田村を中心とする製紙業者に至りては、唯一工場のみ倒壞し今猶復舊せざるものあるも、概して云へば其被害程度輕微にして、災後直に作業を開始し、殆んど震前の狀態に復せり。

（五）麥酒工業

麥酒釀造の工場にはキリン麥酒株式會社と日英釀造株式會社との二あり。前者の工場は全潰し唯僅に地下貯藏室とモルト製造室とが稍々舊形を存するのみ。其損害額は約百三十萬圓を算す。後者は壜詰機械室全潰し、濾過室半潰し其損害額は約四十萬圓なりしが、復舊工事を進め十三年夏期に入りては殆んど從前通りに復舊し、生産能力も亦前と異る所なし。

（六）人造肥料

人造肥料工場は大日本人造肥料株式會社に屬する新浦島工場及守屋町工場の二工場あり。俱に硫酸製造工場を附屬

とせる過燐酸石灰製造の規模宏大なる工場なりしが兩工場ともに燒鑛爐より發火して全潰の上に全燒し、此損害高、新浦島工場に在りては約百六十二萬圓守屋町工場に在りては約百十六萬圓に達すと云ふ。

(七) 壓縮瓦斯

壓縮瓦斯工業には液体空氣會社と横濱骸炭酸素株式會社との二工場あり。前者は建物傾斜し空氣及酸素壓搾機、アセチリン發生機、同壓搾機、乾燥機、清淨機等大破し、タンク全壞せり。されども十月十三日より一部の事業を開始し、十三年十月には全く從前通の生産能力を回復せり。横濱骸炭酸素は其被害比較的輕微にして、機械にも異狀なかりしを以て、災後直に事業を開始し十三年十月には能力を倍加し震前には生産一日十二萬立ありしもの、二十四萬立を生産するに至れり。

(八) 瓦斯工業

瓦斯工業には横濱市水道瓦斯局、東京電燈株式會社横須賀瓦斯製造所、浦賀瓦斯製造株式會社小田原瓦斯株式會社の四工場あり。横濱市水道瓦斯局工場は震災のため建物設備殆んど全潰し、横須賀瓦斯製造所は地盤堅牢なるの故を以て其被害比較的輕微なりしも、瓦斯窯大龜裂をなし又瓦斯ホルダーの支柱故障を生じて用をなさざりき。然れども災後直に應急工事に着手し、十月十七日より供給を開始し、爾來修繕の進むとともに全市に供給し、震前の二十萬二千立方呎の供給力に達せるも、海軍の需要と市民一般の需要とが減じたるため、目下十五萬五千立方呎を供給し居れり浦賀瓦斯は工場の被害輕微なりしも、市設鐵管に大なる損害を受けたり。其供給力は市民の需要半減せるが爲め震前の約半量即ち二萬二千五百立方呎なり。小田原瓦斯も其設備機械に大なる損害を蒙りたりしが、十三年夏期より約

從前通りの供給力を恢復するを得たり。

(九)　骸　炭　工　業

骸炭工業には神奈川コークス株式會社と横濱骸炭酸素製造株式會社との二工場あり。前者は工場傾斜龜裂したるも設備機械の被害は比較的輕微なりしため、十三年一月從前の生産能力に復舊し、同年十月には骸炭、月七千噸、瓦斯、月六十萬立方呎を生産し、是を震前に比するに却て生産能力を增加したり。後者の骸炭工場は被害大なりしも、窯及煙突を新築し、稍々震前の生産能力に恢復せり。

(十)　機械器具の製造

縣下に於ける機械器具工場は其數八十七を算し其八割は横濱市内外に散在し、殘餘の二割は郡部に所屬せり。其主要なるものは次の如し。

禪馬鐵工所	(横濱市磯子町)　汽罐及其附屬機械器具工作機の製造
東洋電機製造株式會社横濱工場	(同久保町)　電車用電動機及制動機の製造
東京電氣株式會社川崎工場	(川崎市)　電球電氣測定器、醫療用機械の製造
細王舍工場	(橘樹郡生田村)　農業用機械の製造
東洋測量器製作所	(中郡吾妻村)　測量用機械の製造
日本鑄造株式會社	(橘樹郡潮田町)　機械部分品の製造
東京螺子製作所	(鎌倉郡川口村)　特種螺子ボールトナットの製造

此等は何れも其基礎强固にて健實なる發達を遂げたるものにして、他は所謂鐵工所と稱するものにして、常時專門

的に一定の製品を製作するに非ずして、時機に應じ注文に從ひ、雜多の機械又は其部分品の製造修理を業として、基礎不確實なるものを多しとなす。

震災に依りて最も甚しき損害を受けたるは横濱市に於ける鐵工所なり。工場再築の資金乏しくして逡巡するものあり、萬難を排して辛くも事業を開始するも、工業界の萎微不振は此等小資本家の經營持續を許さずして、已むなく休業又は廢止せるものもあり。

此に反して年來穩健なる發達をなし、既に定評ある製品を市場に提供せる前記の諸工場に至りては此の不況に際するも、何等沈着の狀を見ず。其の何れも震災に依りて工場の一部倒潰若くは傾斜等の損害を蒙りたるも、燒失を免れたるを以て、設備機械類の損害は比較的輕微にして、僅かの加工に依り再び使用に堪ふるもの多きを以て、建物の復舊するとともに、何れも事業を開始せり。

汽罐原動機及其の附屬機械たる自動燃炭機は、震災前より持越註文にて相當の仕事を有し、電燈球は災後一時品不足を告げて好況にありたるも、稍々落つきの狀態なり。

農業稻コキ機は近來聲價を昂め、遠く北海道東北方面の註文を引受け居れり。

測量器、特種螺子、ボールトナット其の他機械部分品は震災直後に於ては品不足の爲め相當の需要に逐はれたるも現今は廣く行き渡れるためか、幾分製產過剩の有樣にして、中には陸海軍其の他官衙の需要に應じ來れる工場にして軍縮の影響を受け居るもの少からず。

（二）絶緣電線の製造

絶緣電線は縣下に於ける主要工業の一にして、大正十二年末の調査に依れば其の產額千五百萬圓を算し護謨線首位

を占め、電球コード電話電力ケーブル、被鉛線、エナメルド線之に次げり。工場の主要なるものは、次の如し。

古河電氣工業株式會社横濱電線製造所第一工場　（横濱市内西平沼町）
同　第一附屬工場（同　裏高島町）
同　第二工場（同　西平沼町）
東京製線株式會社横濱工場（同　神奈川町）
同　川崎工場（川　崎　市）
同　川崎分工場（同　　）

横濱電線製造所第一工場は、震災前裏高島町にありしが、第二工場とともに全壊全燒し、二千臺の編組機其の他主要なる、設備機械を失へり。然も第一工場の敷地の大部は區劃整理に依りて工場の再築を許さゞるを以て、第二工場に隣接して、第一工場の建設に着手し、十三年六月より全部事業は復活せり。

燒盡したる第二工場の建物設備諸機械も鋭意之が復舊に努力し、十三年一月には運轉を開始し、現今に於ては從業者九百名を算し、生産能力も震災前に劣ることなきに至れり。

東京製線株式會社の經營に成る工場は其被害比較的輕微にして、倒潰したるは川崎工場の製線場一棟にして、エナメル工場は單に傾斜したるに過ぎず、横濱工場も亦燒失を免れたるを以て其復舊は速かなりき。

（三）金屬管竿條の製造

縣下に於ける鋼の管竿條塊の製造は日本鋼管株式會社（橘樹郡田島町）一ケ所なりとす。鋼管はインゴウトと稱する鋼塊より引抜作業に依りて製出され、繼目なしの管と稱せられて善く高壓に堪ふるを以て、汽罐の煙管水管等に使

用さる。竿條は壓延ロール機に依りて作られ、其の形狀に依りて、造船、橋梁、鐵骨架構建築骨組の材料として需要頗る廣く年產額千六百萬圓に達し歐洲戰亂以來極めて穩健なる發達をして今日に及べり。昨秋の震災には同社の生命とするシーメンス爐九基の內七基は大破の厄に遭ひたるも、日夜復舊に努めたる結果、本年一月には、其設備震災前と同一程度までに完成され、月九千噸乃至一萬噸の製造能力を發揮するに至れり。

管條の需要は震災前後に於て大差なしと雖も、低廉なる輸入品に對抗するには、頗る困難を感じ現今は生產費を低廉ならしむる第一步として、工場の整理、動力配送系統の統一、燃料の研究に着手し居るを以て、漸次輸入品を對抗するに困難を感ぜざるに至るべし。

(三) 建築用金屬材料の製造

縣下に產する所の建築用金屬材料は、小屋組、橋梁、窓枠、門扉、鐵塔等に使用さるゝ角鐵、H鐵、溝型鐵にして之を製造するものは、日本鋼管株式會社(橘樹郡田島町)一ヶ所なれども右の材料に依る建築物の組立、加工修理を業とするもの、十四工場あり。日本トラスコン鋼材株式會社(橘樹郡田島町)は其の有數なるものにして、他は多く個人經營に屬する小規模の鐵工所に類するものなり。

基礎の薄弱なる鐵工所にては震災後復舊建築の處々に起れるにもかゝはらず、註文は比較的少く從て他方面の諸機械修理に轉業せるもの少からず、之に反して堅實なる基礎を有するものは、大建築の註文を相當に引受けて、設備機械も亦充實し居れり。

日本トラスコン鋼材株式會社は大正九年の創業以來漸次發展したるも、震災に遇ひて、組立工場の一棟全壞せり。但し幸にして燒失を免れたるを以て工作諸機械には格別の被害なく、從て其復舊も速かなりき。

（一四）綱鋼索の製造

綱鋼索は專ら鑛山索道、船舶、送電線用の心線等に用ひられ、原料たる鋼線、麻糸を撚線機にかけたるものなり。物に依りては、耐水防腐性塗料を施すことあり。其製造工場は

東京製綱株式會社川崎工場　（川崎市）

横濱製綱株式會社神奈川工場　（横濱市神奈川町）

の二ヶ所にして、前者は先年九州八幡製鐵所に合併されたる元日東製鋼株式會社の跡に事業を開始せるものなり。震災當時は未だ諸機械の設備未完成の折なりしを以て建物に破損を生じたりしに過ぎず。後者は明治四十四年の創立にして、爾來堅實なる發達をなしゐたるも、震災の爲に工場建物全壞し、ワイヤロープ製造工場を殘す外は全部燒失したり。仍りて燒失せる麻綱機百二十臺ワイヤロープ製造機三百五臺の修理に力を盡し建物の復舊とともに事業を開始せり。

（一五）陶磁器業

本縣に於ける陶磁器業の主なる工場は、眞葛合名會社、良齋燒製陶所にして、震災の爲に、前者は半潰後者は全潰の厄に遇ひ、其他の工場は大抵全燒し、横濱繪付として其名を海外に轟したる横濱陶磁器は一時廢滅の狀となれるも眞葛工場は修理を遂げ良齋製陶工場は新設され、其他の當業者は縣の補助に依りて設立されたる共同作業場に集合し製作に加ふるに研究を以てせり。震災前一ヶ年間の生産量は百七十萬個、其價格七十萬圓、從業者約三百人なりしが震後一ヶ年の生産量に六十萬個、其價格三十萬圓、從業者約百二十人なり。猶當業者は組合を組織し、復舊に全力を

擧げ、製品の改良諸原料の共同購入等着々進歩と廉賣とに努め居れり。

（一六）漆　器　業

本縣の主なる漆器生産地は、横濱市及足柄下郡小田原町及其の近隣地にして、震災の爲に各工場はいづれも多大の損害を蒙り、生産能力の大部分は削減せられ、工人の靜岡名古屋地方に離散するの已むなきに至れり。本縣の漆器は石川福岡の各縣と異り、輸出向、家具、裝飾品にして、特に外人の好尚に適する芝山は到底他地方にて模作する能はざる技巧を要するを以て、工人の離散を防がんが爲に、漆器組合にては、百方策を講じたるを以て、漸く復興の運に向ひたり。震前一ヶ年間の生産額は約八九十萬圓、其の個數五十萬個、從業者約六百人なりしが震後一ヶ年間の生産額は約四十萬圓、其の個數約二十萬個從業者約三百人なり。

（一七）煉　瓦　及　瓦　業

其の主なる生産地は、鶴見河岸、六郷河岸、及馬入河岸にして、運搬の關係上、此等の地に起りたるなり。震災の爲に工場及窯等の大部分は大破となりて、略々全滅の狀態となれり。普通煉瓦にては、震前六工場其の年産額約二十萬圓なりしが、大正十三年十一月現在にては作業を開始するもの一工場のみにして、其の年産額約五萬圓なり。耐火煉瓦は震前二工場其の年産額三萬五千圓内外なりしも、震災の爲に一工場は全潰して廢業し現在は一工場のみにして一ヶ年の製産額約一萬圓なり。瓦は主に屋根瓦にして、年産額約二十二萬圓、大小工場合せて六ありしも、震災後需要絶無となり、十三年十一月現在に於て製造作業に從事するものは一工場にして、他は廢業及休業中のものなり。震後一ヶ年の生産額は約二萬圓にして震前と比較すれば殆んど言ふに足らず。

（八）護謨業

主なる工場は、寶來ゴム、福田ゴム、横濱ゴム、朝日ゴムの四株式會社にして、震災の爲に横濱ゴム及朝日ゴムは全燒し、寶來ゴムは半潰、福田ゴムは全潰せり。其中寶來ゴムは工場の修理成りて、十二年十一月より作業を開始し福田ゴムは十四年初より作業を開始すべく、横濱、朝日兩會社は資本關係上十三年の末までは復舊に至らず、横濱寶來の二會社は主としてタイヤー類を製造し、福田、朝日はスポンヂー製品を作り、年産額は百七十萬圓なりしが震後は約三十萬圓に減少せり。

（九）石鹼業

主なる工場及横濱石鹼、成和商會、Ⓢ石鹼、帝國石鹼等にして、多くは横濱市内にあり。歐洲戰亂後經濟界の不振に依りて各工場はいづれも事業を縮少し、其經營に努めしも、震災に遭ひて、横濱石鹼、Ⓢ石鹼は全燒し、大日本石鹼は全潰し成和、帝國は半潰の災に罹りたり。大正十三年十一月現在にては、成和、帝國と横須賀の一工場のみ作業に着手し、全燒工場は見込立たず、全燒を免かれたる工場は金融機關の平滑なるに從ひて復舊すべく思はる。震前の年産額は約二百萬圓なりしが、震後は約七十二萬圓に減少せり。

（一〇）蠟燭業

我が國の蠟燭はライジングサン石油株式會社の獨占事業の感を呈し、本縣にも同會社の直屬工場ありしが、震災に依りて全燒したり。震災前に於ける斯業一ヶ年間平均總生産額は約百六十萬圓内外にして、主に西洋型のものを製造

し、日本型は其の五十分の一に滿たず。震災後十三年十一月現在にて、作業中のもの三工場あり、其生産額は一ヶ年約六十五萬圓なりとす。

(三) 味之素

味之素は本縣の特産品にして、全國を通じて本縣川崎市に一工場あるのみ。震災の爲に全潰せる工場棟數は七、其他は半潰なり。大正十三年初より作業を開始し震災前の年産額は平均五百萬圓餘にして職工數約三百七十人にて、主として、關西、九州、北海道方面を得意としたりしが、震災後は關東、東北地方の需要急激に增加し、家庭的用品として其用途廣汎となれるを以て、震後著しく生産力を加へ、年産額約七百萬圓以上に達する見込となれり。

(三) カーボン業

カーボン製造工場として、本縣にあるものは、日本カーボン株式會社神奈川工場一ヶ所あるのみ。震前一ヶ年の生産額は四十五萬圓なしが震災に依りて煙突及窯等は破壞せられたるも、其他に大なる被害なかりしを以て十二年十一月より製造に着手し、十三年十一月現在にては全部修理を遂げ震前同樣の生産能力に復したり。

(三) 製糖工業

本縣に於ける砂糖の製造は明治製糖株式會社川崎工場の一あるのみ。同工場は震災の爲に建物全潰し加ふるに其一部は火災に罹れるを以て、修繕して再び使用し得べきものは、眞空罐及分蜜機等のみにして、他は殆んど使用に堪へず其損害額は約五十萬圓なり。されど幸にして當時貯藏せし多量の原糖及精糖は燒失を免れたり。十二年十二月より

再築の工を起し翌年八月より製造を開始し、其製造能力は舊に增して、一日二百噸となり、職工も以前より增して百八十人となれり。

（二四）工業藥品

本縣に產する工業藥品の主要なるものは、苛性曹達並に加里、晒粉炭酸マグネシウム並に曹達、明礬等にして、歐洲戰後は何れも縮小的方針を取れり。震災に罹りて倒潰せるものは六工場中二、一部燒失せるものは一、比較的輕微なりしものは三なりき。十三年春頃には、工場全部復活して作業を開始せるも、經營困難の爲め廢業せるもの一あり、十三年十一月現在にては大体に於て災前の三分の一の能力を以てせるもの〻如し。

（二五）醫藥品工業

本縣の醫藥品製造工業は歐洲大戰當時一時に勃興し、相應に規模大なる工場も二三ありしが大戰の終熄とともに忽ち不況に陷り、廢業轉業等相次いで起り、悲慘なる狀態を現出せり。其間に辛くも繼續し來れる工場は八にして、其中に薄荷製造工場三あり。其他グリセリン、フオルマリン、エーテルチモール等を製する工場ありしも、何れも微々たるものなりき。震災の爲には殆んど其大半は燒失し、被害甚大にして、薄荷工場の如きは直に神戸に避難し、同時に販賣を開始したり。震災後相當の日子を經過するも、其復舊は思はしからず、八工場中四工場は遂に廢業するに至れり。

（二六）爆發物工業

爆發物を製造する工場は、淺野セメント株式會社カーリット部保土ケ谷工場の爆藥カーリットを製造するあり、平

山工場、二宮商會の二工場の打上花火を製造するあり。震災にては相當の打撃を蒙りたるも、いづれも火災を免れたるを以て、其被害は比較的輕微にして、カーリット、平山の二工場は直ちに修復し十二年十一月には從前通り事業再開の運びに至れり。

(二七) 皮革工業

本縣に於ける皮革工業は極めて微々たるものにして、其工場は何れも横濱市及其附近にあり、根岸町の日本キッド株式會社は規模稍見るべきものあれども、井戸ヶ谷方面にある二三の工場保土ヶ谷方面にある一工場の如き、家庭工業の域を脱せず、震災に就いては何れも小傾斜の程度に止り且つ業務の性質上、郊外の火災區域以外にありしを以て其被害極めて輕微にして、十二年十月末には何れも事業再開の運に至れり。

(二八) 塗料顔料工業

本縣に於ける顔料製造工場としては、諸星印刷インキ製造所の一あるのみ、塗料製造工場としては株式會社彌富商會塗料工場あり。他に二工場あれども、規模小にして見るに足らず、震災に就いては、前記二工場とも何れも火災區域外にありしを以て、火災にある被害はなかりしも、倒潰傾斜等の爲め其損害は相當の額に上れり。此二工場は急遽に復舊工事をなし、十二年末には其事業を開始せり。

(二九) 鍍金工業

鍍金を業とする工場は、何れも横濱市内に存在し、横濱亞鉛鍍金株式會社、合名會社渡邊鍍金工場あり。他に七工

場あるも、其規模極めて小にして家庭工業の範圍を脱せず。震災の爲には、何れも倒潰に加ふるに火災を以てし、其被害激甚なり。殊に横濱亞鉛鍍金の如きは、工場全潰全燒して、再び使用に堪ふるものなく、何れも小工業に屬するを以て、復興開始し得るもの極めて少く、九工場中六工場は廢止するの止むなきに至り、僅に二工場のみ辛うじて復活するを得たり。

(三〇)　油　脂　工　業

縣下植物油の工場は主として大豆油、胡麻油、椰子油等を製し、大戰後の影響を受けて、十二工場中七工場のみ其事業を繼續し來りしが、震災の爲に燒失せしもの四、全潰せしもの五、比較的輕微なりしもの三に過ぎず。從つて廢業せしもの四、繼續困難なるもの五、災後復舊して事業開始中のもの僅に三の狀態なり。

(三)　紡　績　工　業

紡績工業の工場數は次の如し。

綿糸紡績　富士瓦斯紡績株式會社川崎工場、相模紡績株式會社、小田原紡績株式會社、服部商店横濱工場

絹糸紡績　富士瓦斯紡績株式會社保土ヶ谷工場、關東紡績株式會社平塚工場、榊原製綿絹紡工場

毛糸紡績　横濱紡績株式會社、龍華絹糸紡績株式會社、相模毛糸紡績株式會社

麻糸紡績　東洋麻糸紡績株式會社

其倒潰燒失は次の如し。

	棟數			坪數		
	煉瓦造	木造		煉瓦造	木造	
倒潰	四九七	二	四七一	五六、五〇〇	二九、五一八	二六、九八二
燒失	二九	四	二九	四、八三四	二、四四九	二、三八五
計	五二五	二五	五〇〇	六一、三三四	三一、九六七	二九、三六七

其損害額は次の如し

	燒失損害	倒潰損害	計
建物	四四一、六八〇円	四、八二八、六三九円	五、二七〇、三一九円
製品	五〇五、〇〇〇	四四五、八一〇	九五〇、八一〇
原料	四七五、〇〇〇	二三、二二〇	五九八、二二〇
機械	一、一二九、二七〇	四、八四二、八〇四	五、九六二、〇七四
器具其他	六、〇〇〇	一四五、〇〇〇	一五一、〇〇〇
累計	二、五四六、九五〇	一〇、三八五、四七三	一二、九三二、四二三

其死傷者數は次の如し

	男	女	計
職員死者	九人	人	九人

職工	死者	三六	九一八
職員	負傷者	四	四
職工	負傷者	二一	五七二
累計		二五〇	一、五〇三

死傷者の多少は工場の位置等にも原因すれども建物種別に依りて非常の差あるが如し。試に工場位置等の相似たる次の二會社を比較せば其概要を知るを得べし。

工場名	建物種別	震災當日出勤職工數	死傷者數	比較
小田原紡績	煉瓦造	一、二四〇	二七四	二二、一%
相模紡績	木造	一、五〇九	一九〇	一二、五%

震災前に於ける本縣紡績工場の主たる工場は前記十一工場なりしが、いづれも全潰し、若くは全燒し、其被害甚大なりしを以て大半は解散又は廢止することとなり、十三年十一月現在にて操業中の工場は比較的基礎の確實にして資力の裕かなる富士紡川崎工場、同保土ヶ谷工場、相模紡、關東紡のみなりとす。

(三)　絹莫大小工業

工場數は會社經營のもの五、個人經營のもの三八にして其被害は次の如し。

其損害額は次の如し

	棟數	煉瓦造	木造	坪數	煉瓦造	木造
倒潰	四三	三	四〇	二、六五〇	五五〇	二、一〇〇
焼失	七八	四	七四	三、三一〇	二三〇	三、〇八〇
計	一二一	七	一二四	五、九六〇	七八〇	五、一八〇

	焼失損害	倒潰損害	計
建物	六九三、八七五円	二九七、三七五円	九九一、二五〇円
製品	三四九、七〇四	一四九、七三〇	四九九、四三四
原料	八七、八九二	三七、六六八	一二五、五六〇
機械	四三二、六九一	一八五、四三九	六一八、一三〇
器具其他	五二、五〇〇	二三、五〇〇	七五、〇〇〇
累計	一、六一六、六六二	六九二、七一二	二、三〇九、三七四

其死傷者數は次の如し

	男	女	計
職員死者	一人	一人	一人

職工死者	二	一	三
職員負傷者	一	一	二
職工負傷者	五	一	六
累計	八	二	一〇

本業の工場は個人經營にかゝるもの多く、從つて規模の大なる工場なきを以て、死傷者は比較的少し。

絹莫大小は本縣の特產品にして、横濱市內の生產にかゝり、震災前には輸出向を主とし、年產額百六拾八萬五千百八十圓に達せしが、被害程度頗る大なりしが爲め、復興遲々として進まず、十三年十一月現在にては、僅に一ヶ月七萬圓內外の生產を見るのみ。震災前後の工場數は次の如し。

	災前	被害數	復舊數	廢業數
工場數	四三	四三	三四	九
機械數	六一五	六一五	三一二	四〇三

(三)絹撚糸業

工場數は會社經營にかゝるもの　二、個人經營にかゝるもの四四八なり。

其被害は次の如し。

損害額は次の如し

	棟數	煉瓦造	木造	坪數	煉瓦造	木造
倒潰	一、三八九	五	一、三八四	一九、八一二	一、二一四	一八、五九七
燒失	—	—	—	—	—	—
計	一、三八九	五	一、三八四	一九、八一二	一、二一四	一八、五九七

	燒失損害	倒潰損害	計
建物	—円	一、〇八三、一六八円	一、〇八三、一六八円
製品	八八三、八二一	一五、〇〇〇	八九八、八二一
原料	一〇五、五一〇	一九、六五〇	一二五、一六〇
機械	—	六八三、七二八	六八三、七二八
器具其他	—	一六一、二〇〇	一六一、二〇〇
累計	九八九、三三一	一、九六二、七四六	二、九五二、〇七七

死傷者數は次の如し

	男	女	計
職員死者	—人	—人	—人

職工死者	一〇	一七	二七
職員負傷者	—	—	—
職工負傷者	三	一〇	一三
累計	一三	二七	三九

右の死傷者中二十名は、横濱市内に於ける横濱撚糸織物株式會社工場及日本絹撚株式會社保土ヶ谷工場の死傷者にして、他の十七名は愛甲郡愛川村に於て山崩れにて工場埋没したるが爲めに壓死せしものなり。

本縣に於ける規模の大なるものは前記の二工場にして、其の他に愛甲郡愛川村を中心として本郡一圓は足柄上郡の南都に分布せる大小の工場は、主として個人經營にして、年産額壹千貳百萬圓に及びしも、被害激甚なりしが爲め復興遲々として進捗せず。

（三四）綿織物工業

會社經營のもの四、個人經營のもの七二あり。其被害は次の如し

	棟數	煉瓦造	木造	坪數	煉瓦造	木造
倒潰	一六八	三	一六五	七、二七七	六〇四	六、六七二
焼失	三	—	三	四二	—	四二
計	一七二	三	一六八	七、三一九	六〇四	六、七一五

其損害額は次の如し。

	焼失損害	倒潰損害	計
建物	四、五〇〇円	二八九、四三五円	二九四、四三五円
製品	二〇、五九九	五五、〇二一	七五、六二〇
原料	一、六三〇	一一、六六六	一三、二九六
器具其ノ他	二、〇〇〇	一一〇、四六〇	一一二、四六〇
累計	二九、七二九	五一一、九五〇	五四一、六七九

死傷者の數は次の如し。

	男	女	計
職員死者	一人	一人	二人
職工死者	七	二〇	二七
職員負傷者	二	一	二
職工負傷者	一	一七	一八
累計	九	三八	四七

綿織物は主として郡部秦野町地方を生産地とする關係と大規模の工場少きが爲に死傷者も亦少數なり。

本縣產綿織物の種類には輸出向細布・綿帆布・ベルベチーン・小幅木綿・輸出向綿縮等ありて、年產額五百萬圓を

算し、其の主なる工場に小田原紡績株式會社工場、横濱帆布株式會社工場、日本帆布株式會社工場、中外紡績株式會社東神奈川工場あり。其の他は中部秦野町を中心とする個人經營の工場あり。大部分は火災區域外に存せるが爲め、燒失に因る損害は輕微なりしも、全潰に因る被害は甚大なりき。

十三年十一月現在に於ける復舊概況を調査せるに、會社經營の工場に在りては、廢止工場二、(横濱帆布株式會社工場、中外紡織株式會社東神奈川工場)、廢業工場一、(日本帆布株式會社工場)、復舊の方法計畫中のもの一、(小田原紡織株式會社工場)等にして復舊はかゞらず。唯日本帆布のみは廢業と同時に日本加工織布株式會社に買收せられたるが爲め災前に復舊し、綿帆布一ヶ月貳萬圓の製品を見るを得たり。

中野、秦野町を中心とする個人經營の多數綿織物工場は震災直接の被害僅少なりしも、東京方面に取引商を有する工場に在りては、製品の燒失及賣掛金の回收不能等に因る損害多し。然れども本縣より融通し得たる四萬圓の低利資金に因り、同地方に於ける代表工場たる平野工場、石田工場、小泉工場、田中工場等は復舊し、其の他の工場に於ても比較的復舊速かにして、既に昨年十月中旬に於て一部の工場は運轉を開始し、十三年三月中旬頃迄には工場全部の操業を見るに至れり。

(三)　其の他の織物業

其の工場數は會社經營のもの五、個人經營のもの三あり。其の被害個數は次の如し。

	棟數	煉瓦造	木造	坪數	煉瓦造	木造
倒潰	三		三	七四三		七四三

焼失	二	一	一、八六五	一、八六五
計	三三	一	三三	二、六〇八	一	二、六〇八

其の損害別は次の如し。

	焼失損害	倒潰損害	計
建物	九五、〇〇〇円	一五、六五〇円	一一〇、六五〇円
製品	一八九、四一〇	一〇、〇〇〇	一九九、四一〇
原料	二六、三八〇	五、五三〇	三一、九一〇
機械	三七、七八四	一九、四〇〇	五七、一八四
器具其他	二七、三〇〇	八、一〇〇	三五、四〇〇
累計	三七五、八七四	五八、六八〇	四三四、五五四

日本加工織布株式會社横濱工場、同葉山工場、同横須賀工場（防水布）、日本リンネット株式會社工場（疑麻布）、成和リボン工場（帽子リボン）等相當大規模の工場ありしも、僅に一工場のみを除いて、其の他は燒失し、若くは倒潰したりき。然れども此等の工場は根本復舊し、日本加工織布株式會社の如きは、災後に於て日本帆布株式會社工場を買收して、其の事業を擴張せしがため、震災前と大差なき狀況なり。

（六）絹織物工業

倒潰工場の被害調は一萬二千三百三十四坪にして、木造及煉瓦造、其損害高は五十萬三百八圓なり。製品及原料の損害高は三十五萬九百二十圓、機械器具の損害高は六十五萬三千六百二十八圓、其の他の損害は五萬五千九百五十九圓なり。死傷者調は次の如し。

死者	男　二〇	女　一六七	計　一八七
負傷者	男　二四	女　三〇	計　五四

本縣産の絹織物種類は富士絹（輸出向）絹紋織（輸出向）、津久井絹織物等にして、年産額五百萬圓を算し、其の主なる工場に富士瓦斯紡績株式會社保土ヶ谷工場（富士絹）、横濱撚糸織物株式會社工場（絹紋織）あり、其の他に津久井郡一圓及高座郡の北部に分布せる個人經營の絹織物工場なりとす。前記二大工場は全潰に依る被害多大なりしも、郡部に於ける大小工場の被害は至つて輕微なりしを以て、其復舊は迅速なりき。

（三七）輸出布帛加工業

横濱市に於ける布帛加工業は輸出品にかゝりて其種類少からず、就中バテンレース、ドロンウオーク、レネサンス、モザイク絹手巾、刺繍品、テーブルクロース大部分を占め、大正十一年に於ける産額は千六百萬圓に達し、其工賃約八百萬圓、之が專賣工場二百戸を有し、更に之が部分的作業に從事する副業者は約五萬人と稱せらる。

震災被害は專業工場二百戸中、全潰四（三百二坪）、燒失一九六（三千九百九十五坪）建物、機械類、製品等の損害百四十四萬三千餘圓の巨額に上り、爾後數月に渉りて、生産を中絶したる損害を見積る時は、如何に其損害の多きかを思はしむ、此間靜岡、新潟、岡山、富山の諸縣に於ける本業は好況を呈したるを以て、其影響は鮮少に非ず。而して本業が漸く復舊の緒に就けるは、大正十三年にして政府が農工銀行を通じて融通したる低利資金に依りて有力なる

八工場の復興したるを初めとし、續て四月に入りて震災善後會よりの低資一萬五千圓の貸付ありて、一般業者に必要なる機械器具の購入貸付をなし、更に最近産業組合の組織成り、資金の供給、融通、原料の購入等それ〴〵其方法を講じ復興の氣運を促進せり。

（元）輸出絹織物染色業

本業は輸出絹業に從屬したる加工業にして、震災前には三十九工場を有したりしも、燒失（二十六戸、二六二五坪）全潰（七戸、一六九〇坪）半潰（六戸、九六九坪）の慘害を受け、建物、機械、製品等の損害見積約百五十萬圓を算し、震災後數月に亘りて事業中絶し、此間輸出絹業の神戸港移轉とともに、同業者中伊豆庄染工場、鹽崎染工場、秋山工場等の移轉相つぎ、同地に於て開業するもの十工場に及び、更に神戸在來の北子、照沼の兩染工場、及新に關西染色株式會社、神戸染色工場の起るあり、猶鐘紡山科工場、稻畑染工場、日本加工織物工場等有力なる會社に於ても一部本業に手をつくるに至り、震災前に於ける横濱市獨占の本業も殆んど其領域を侵さるゝに至り、當市の復興上に多大の影響を受け、其前途悲觀に傾きしも、殘留當業者の努力に依り十三年四月迄に復舊開業せる主なる工場に秋山出口、宮崎、小島、秋葉、今井の諸工場を算し、其他小規模の工場を合する時は、六月末に於て實に二十工場の復興を見るに至れり。猶最近に於ては當市絹業有志者を以て組織せられたる社團法人日本絹業協會の事業として、外商誘致の爲め二十萬圓を投じて店舗の建設をなすに至り、九月印度商人二十名の歸濱するあり、神戸移轉者の歸濱するものありて、二十六工場を算することゝなれり。

（元）輸出麻眞田工業

倒潰工場の坪數、建築種類別、損害高は次の如し。

坪數	四百五十三坪五合
建築物種類	木造眞田製造工場
損害高	三萬七千四百五十圓

燒失工場の坪數、建物種類別、損害高は次の如し。

坪數	千二百三十一坪五合
建築物種類	木造眞田製造工場
損害	十一萬二千五百五十圓

製品及原料損害高は一百九十一萬三千圓にして、機械器具損害高は十五萬七千八百圓なりとす。

死傷者は壓死八、燒死四、重傷一なり。

一時內地各地方の生產品は主として神戶港に集中し、同港を經由して海外に輸出せられしも、漸次橫濱港に回復の傾向あり。